

LGBTの知識と理解に関する世代間格差

田中 敏明^{*1}・貞末 俊裕^{*1}・武谷 美咲^{*2}

^{*1}九州女子短期大学子ども健康学科 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 (〒807-8586)

^{*2}福岡市立平尾小学校 福岡市中央区平尾3-29-1 (〒810-0014)

(2017年10月25日受付 2017年12月4日受理)

要 旨

LGBTに対する理解や受容を促す各世代にふさわしい方策について検証するため、高校生とその保護者を含む中高年世代を対象に、LGBTに対する理解、受容、共感、肯定・否定、自己体験に関する世代間の比較を行った。レズビアンやゲイについては両世代共によく知っているがバイセクシュアルやトランスジェンダーについてあまり理解されていないこと、LGBTのいずれも中高年世代の方が知っており、出会った経験も多いこと、高校生の方が受容する割合が高いこと、中高年世代は全般的に受容する割合が低く、とくにゲイに対しては拒否的な回答が多くみられた。制服やトイレの使用などに対する配慮に関しては、高校生は統一すべきという意見が多く、中高年世代は自由に選ばせるのが望ましいと考えている傾向が見られた。授業でLGBTについて取り扱うことが望ましいと考える割合は中高年世代の方が高かった。これらの結果から、高校生には、LGBTを否定的に見たり、嫌悪感を持ったりすることは当事者に強い苦痛や生きづらさを感じさせ、何気ない言葉が相手を傷つけること、中高年世代には、LGBTは自然の姿であることや当事者の思いについて伝え、理解と受容を促すことが課題となる。

キーワード：LGBT 理解と受容 世代間格差

1. 研究の背景と目的

このところ、LGBTという言葉が注目を集めている。LGBTは、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの4つから構成される性的少数者の総称である。性的少数者は、かつては周囲の人々から違和感を持たれることも少なくなく、生きづらさを感じるが多かったと思われる。最近では世間の理解も少しずつ深まり、政府や、地方自治体などもLGBTに該当する人が社会の中で生きやすい状況を作ろうとしている。2016年5月には、東京都渋谷区で、事実上の婚姻関係にある同性のカップルに対して、法的な婚姻関係は認めないがそれに準じた扱いをするという「同性パートナーシップ条例」が全国に先駆けて施行された。学校においても小学校1年生で帽子を統一する、男の子も女の子も「さん」で呼ぶなど、LGBTへの配慮が行われるようになってきている。このようなLGBTへの配慮が話題

を呼んだことも、LGBTに対する世間一般の関心を高める一つのきっかけになったものと思われる。

上野(2008)^{*1}によると、LGBTに関する研究は主として4つの側面から行われてきている。①社会学的な側面からの研究(差別と抑圧、ジェンダーなどの側面)②文化的、歴史的な視点からの研究(性的マイノリティの受け止め方文化や時代による違い)③同姓婚やそれに関する法律に関する研究④性同一性障害の診断と治療に関する研究の4つの側面である。これまで、LGBTの存在自体は認識されながらも、そうした人々のための法的整備や行政的施策が行われることはなく、学校や会社などでも何らかの対策が講じられることはほとんどなかった。そのため、当事者は、社会適応の面において多くの困難を抱えながら生活していたと考えられる。LGBT当事者が円滑な社会生活を営んでいくためには、一部の行政機関のみの取り組みだけでは不十分であり、社会全体の理解が不可欠となる。社会全体の理解とは、社会を構成するすべての人の理解である。学校の保健指導や社会科の授業などで取り上げられるようになったことから、若い世代はある程度の知識を持っているかもしれない。しかしながら、中高年の世代の人々にとっては、知識や理解、受容度が低い可能性がある。その場合には、知識や理解、受容を深めていく何らかの対策が必要となる。

LGBTの人たちの悩みや苦しみの一つに「アウトティング」の問題がある。アウトティングとは、自分がLGBTであることを信頼できる友人等に話し、友人等がそれを第三者に話してしまうことをいう。話は次第に広がり、第三者からそれを指摘されたり、無分別な言葉を投げかけられたりすると、その言葉に傷ついたり、多くの人に知られていることが大きな苦痛となる。アウトティングは避けがたい現象であり、この問題が解決されるためには、周囲の人が、LGBTの人は何を求めているのか、どのような苦しみがあるのか、どのような言動が本人を傷つけるのかなどを理解しなければならない。このように、LGBTへの配慮や世間一般の関心が高まったものの、教育現場における課題は多く残されている。課題の一つが、着替えることが苦痛となりやすい体育やプールの授業や、男性・女性といった体の性で種目が異なる体育祭や球技大会、体の性で着るものが決まっている制服をどうするかという問題である。今のところ、着替えの際に別室を設ける、体育祭や球技大会などの種目を性別で分けることを廃止する、制服を自由にするなどの対策がとられている。これらの対策を実施し効果的に推進するためには、保護者や他の児童生徒、教職員の協力・理解が不可欠である。LGBTの理解を目的とした授業や、同性愛者を否定するような発言が出た際の指導を推し進め教育効果を高めるためには、子どもの学びと保護者や大人の認識の間のギャップがなく、学校での指導と家庭の保護者や社会の人々のLGBTに対する姿勢ができるだけ一致していることが望まれる。児童生徒だけでなく、児童生徒の保護者に対しても、LGBTの知識、理解・受容、具体的なかかわりかたを伝えることもこれからの学校果たすべき役割の一つである。これまで、LGBTの知識と理解の世代間格差を明らかにする研究は行われていない。

そこで本研究は、児童生徒のうち、性に関する知識をある程度持っておりこの種の調査が実施可能な高校生と、その保護者を含む中高年世代を対象に、LGBTに対する理解、受容、共感、肯定・否定、自己体験に関する世代間の比較を行い両世代の特徴を明らかにする。その結果をもとに、LGBTに対する理解や受容を促す各世代にふさわしい方策について検証する。

II. 調査方法

1. 調査の対象

- ① 福岡市内の高校生1～3年 246名 (男性110名 女性136名)
有効回答数246名 (100%) 高校生は全員10代である。
- ② 40代～70代の中高年層 141名 (男性54名 女性87名) 有効回答数141名 (100%)
内訳～40代61名 (43%)、50代59名 (42%)、60代12名 (9%)、70代7名 (6%)

2. 調査の時期：2016年6月～8月

3. 調査の内容

以下の設問でアンケート調査を行った。

- (1) あなたの年齢にあてはまるものに○をつけてください。
- (2) あなたの戸籍上の性別に○をつけてください。
- (3) あなたの心理的な性別に○をつけてください。
- (4) 現在、恋愛感情を伴って交際をしている人、又は配偶者はいますか。(「はい」と答えた方(5)に回答してください。)
- (5) 交際をしている人、又は配偶者の性別に○をつけてください。(あなたの思っている相手の性別で大丈夫です。)
- (6) あなたには、同性を愛する傾向や恋愛感情を持つ傾向があると思いますか。
- (7) レズビアン(L)という言葉は知っていましたか。(「全く知らない」以外に○をつけた方は8～9番も回答をお願いします。)
- (8) レズビアンの人に会ったことはありますか。
- (9) 8番で「ある」「そうかなと思う人ならある」と答えた方に質問です。それはどんな人ですか。具体的に教えてください。
- (10) レズビアンについてどう思いますか。
- (11) ゲイ(G)という言葉は知っていましたか。(「全く知らない」以外に○を付けた方は(12)～(14)に回答してください。)
- (12) ゲイの人であったことはありますか。
- (13) 12番で「ある」「そうかなと思う人ならある」と答えた方に質問です。それはどんな人ですか。具体的に教えてください。

- (14) ゲイについてどう思いますか。
- (15) バイセクシュアル (B) という言葉は知っていましたか。(「全く知らない」以外に○を付けた方は (16) ~ (18)) に回答してください。)
- (16) バイセクシュアルの人に出会ったことはありますか。
- (17) 16番で「ある」「そうかなと思う人ならある」と答えた方に質問です。それはどんな人ですか。具体的に教えてください。
- (18) バイセクシュアルをどう思いますか。
- (19) トランスジェンダー (T) という言葉は知っていましたか。
- (20) トランスジェンダーの人に出会ったことはありますか。(「ない」と答えた方は (23) 以降に回答してください。)
- (21) (20) 番で「ある」「そうかなと思う人ならある」と答えた方に質問です。それはどんな人ですか。具体的に教えてください。
- (22) トランスジェンダーの人に出会って、どのような印象を受けましたか。
- (23) トランスジェンダーの人のことをどう思いますか。
- (24) LGBTという言葉はどこで知りましたか。複数回答可です。
- (25) もし自分の子どもや孫がLGBTだと告げたらどうしますか。
- (26) LGBTについて学校の授業で取り扱うことについてどう思いますか。
- (27) 男女共に呼び方を「さん」で統一することに関してどう思いますか。
- (28) LGBTの子どもに配慮して多目的トイレの使用を認めることに関してどう思いますか。
- (29) LGBTの子どもに配慮して制服の廃止を認めることに関してどう思いますか。
- (30) 水着を男女とも上着のついたものに統一することに関してどう思いますか。
- (31) その他、学校現場においてLGBT当事者に配慮した取り組みとして何が必要だと思いますか。

4. 倫理的配慮：アンケート調査の内容については、本研究以外では使用しないこと、答えたくない場合は答えなくても良いことを説明し、個人情報保護を含め、倫理的配慮を最大限に行った。

III. 結果

表1は調査対象者の戸籍上の性別と心理的な性別が一致しているかどうかについて示したものである。今回の調査対象者は、高校生246名中243名が、中高年層141名中140名が戸籍上の性別と心理的な性別が一致している。「その他」と「無回答」の高校生3名、高年層1名合計4名は体の性別と心の性別が一致しているかどうかは不明である。また、中高年層に、配偶者または交際相手の性別が無回答の人が2名いる。今回の研究はLGBTに該当する人も含めた知識と理解を見るため、回答者全員を集計の対象とする。

表1. 心理的な性別 人数 (%) 高校生 (n=246) 中高年 (n=141)

	男性・男性	女性・女性	男性・女性	女性・男性	その他	無回答
高校生	109 (44.3)	134 (54.5)	0	0	1 (0.4)	2 (0.8)
中高年	54 (38.3)	86 (61.0)	0	0	1 (0.7)	0

表2. 配偶者または交際相手の有無

	はい	いいえ
高校生	39 (15.9)	207 (84.1)
中高年	105 (74.5)	36 (25.5)

配偶者または交際相手の有無に関しては、高校生では、配偶者または交際相手がいる人は15.9%にとどまるが、中高年層は74.5%に配偶者または交際相手がいる。相手の性は、中高年層の無回答者2名を除いて全員が異性の相手であり、LGBTに該当する人は今回の調査者の中には見られなかった(表3)。

表3. 交際相手の性別 人数 (%) 高校生 (n=39) 中高年 (n=105)

	男性・女性	女性・男性	男性・男性	女性・女性	その他	無回答
高校生	17 (6.9)	22 (8.9)	0	0	0	0
中高年	63	40	0	0	0	2 (1.4)

表4の結果から分かるように、同性を愛す傾向や恋愛感情を持つ傾向があるかどうかを尋ねたものである。高校生は、「はい」又は「どちらかといえばあると思う」に○を付けた人数が16人(6.5%)であるのに対し、中高年は3人(2.1%)であった。高校生にやや多いが中高年層との間に有意な差はみられない($\chi^2=.31$ df=1 p>.05 non.sig.)。

表4. 同性を愛する傾向や恋愛感情を持つ傾向

	ある	どちらかといえばある	どちらかといえばない	ない	無回答
高校生	7 (2.8)	9 (3.7)	27 (11.0)	202 (82.1)	1 (0.4)
中高年	1 (0.7)	2 (1.4)	11 (7.8)	127 (90.0)	0

表5は、LGBTそれぞれについてどの程度知っているかについて、高校生と中高年層に分けて示したものである。表5からわかるように、全体として、レズビアンやゲイに関する知識については、「知っている」「なんとなく意味が分かる」と答えた割合が90%前後と高い。

とくに、中高年層は、L（レズビアン）とG（ゲイ）については、9割以上の中高年層が「知っている」と答えている。高校生も7割から8割はこの2つについて知っている。中高年層の方が知っている割合は高く両者の間に有意差がある（レズビアン： $\chi^2=16.76$ df=1 $p<001$, ゲイ： $\chi^2=4.63$ df=1 $p<05$ ）。一方、B（バイセクシュアル）とT（トランスジェンダー）については、「知っている」と答えた割合が高校生、中高年層のいずれも5割を下回っており、レズビアンやゲイに関する知識とは異なり、あまり知られていないということがわかる。とくに、高校生はトランスジェンダーに関する知識が低い。バイセクシュアルでは中高年層との間に有意差は認められないが（ $\chi^2=3.27$ df=1 $p>.05$ non.sig）トランスジェンダーでは両者の間に有意差がある（ $\chi^2=12.47$ df=1 $p<.001$ ）。

表5. LGBTに関する知識 人数 (%) 高校生 (n=246) 中高年 (n=141)

		レズビアン(L)	ゲイ(G)	バイセクシュアル(B)	トランスジェンダー(T)
知っている	高校生	183(74.4)	206(83.7)	92(37.4)	46(18.7)
	中高年	129(91.5)	129(91.5)	66(46.8)	49(34.8)
なんとなく意味が分かる	高校生	37(15.0)	29(11.8)	30(12.2)	31(12.6)
	中高年	4(2.8)	4(2.8)	14(9.9)	14(9.9)
聞いたことがある	高校生	13(5.3)	10(4.1)	43(17.5)	40(16.2)
	中高年	8(5.7)	6(4.3)	20(14.1)	19(13.5)
全く知らない	高校生	12(4.9)	1(0.4)	78(31.7)	126(51.2)
	中高年	0	2(1.4)	32(22.7)	47(33.3)
無回答	高校生	1(0.4)	0	3(1.2)	3(1.2)
	中高年	0	0	9(6.4)	12(8.5)

表6. LGBTに出会った経験 人数 (%)

		レズビアン(L)	ゲイ(G)	バイセクシュアル(B)	トランスジェンダー(T)
ある	高校生	11(4.7)	9(3.7)	8(4.8)	7(5.8)
	中高年	8(5.7)	12(8.6)	6(5.5)	13(13.8)
そうかなと思う人ならある	高校生	22(9.4)	20(8.2)	7(4.2)	3(2.5)
	中高年	19(13.5)	19(13.7)	8(7.3)	15(16.0)
ない	高校生	199(85.0)	213(86.9)	150(89.2)	103(85.8)
	中高年	105(74.5)	92(66.2)	85(78.0)	52(55.3)
無回答	高校生	2(0.9)	3(1.2)	3(1.8)	7(5.8)
	中高年	9(6.4)	16(11.5)	10(9.2)	14(14.9)

表6から分かるように、LGBTに出会った経験は全体的に中高年層の方が高いが、両者とも「ない」と答える割合が高い。各項目とも両者の間に有意差は認められない。ただ、とくにバイセクシュアルとトランスジェンダーに関しては、知らないという人が多いことから、出会っていてもわからなかった可能性がある。出会ったことが「ある」「そうかなと思う人ならある」と答えた人に、どのような関係の人が尋ねたところ、元クラスメイト、クラスメイト、中学のときの学校の人、部活動の先輩、知人、友人、留学先で会った人、学校の先生（公認していた）、他校生徒、友人、クラスメイト、知人のお姉さん、同僚、患者、大学のときの学生、店員、職務上（公安関係）、親類の人、市街地で出会った人等、学校現場や職場、店の中など、生活の様々な場面で出会っている。

表7は、LGBTをどう思うかについて示したものである。

表7. LGBTについてどう思うか 人数 (%)

		レズビアン(L)	ゲイ(G)	バイセクシュアル(B)	トランスジェンダー(T)
いいと思う	高校生	145(62.0)	136(55.5)	96(57.1)	75(62.5)
	中高年	56(39.7)	48(34.5)	24(22.0)	30(31.9)
いいとも受け入れがたいとも思わない	高校生	48(20.5)	56(22.9)	36(21.4)	23(19.2)
	中高年	26(18.4)	18(12.9)	26(23.9)	34(36.2)
そういうものには関心がない	高校生	35(15.0)	41(16.7)	29(17.3)	14(11.7)
	中高年	39(27.7)	39(28.0)	32(29.4)	15(16.0)
受け入れがたい	高校生	5(2.1)	9(3.7)	3(1.8)	3(2.5)
	中高年	9(6.4)	20(14.4)	15(13.8)	3(3.2)
その他	高校生	1(0.4)	0	0	1(0.8)
	中高年	4(2.8)	4(2.9)	4(3.7)	7(7.4)
無回答	高校生	0	3(1.2)	4(2.4)	4(3.3)
	中高年	8(5.7)	10(7.2)	8(7.3)	5(5.3)

表7の結果からわかるように、「いいと思う」と回答した割合は4項目とも高校生の方が高く、いずれも5割を上回っている。一方、中高年は、認知度や出会った経験の数は多いものの、受容となると4項目とも4割以下であり、とくにバイセクシャルの受容率が低い。「いいと思う」割合は4項目の全てで高校生と中高年層の間に有意差が認められ、いずれも高校生の方が高くなっている（レズビアン： $\chi^2=17.70$ $df=1$ $p<.001$, ゲイ： $\chi^2=20.66$ $df=1$ $p<.001$, バイセクシャル： $\chi^2=23.64$ $df=1$ $p<.001$, トランスジェンダー： $\chi^2=9.18$ $df=1$ $p<.01$ ）。また、中高年層はLGBTすべてにおいて「関心がない」が高校

生を上回り、ゲイを除いて両者の間には有意差がある。(レスビアン： $\chi^2=10.45$ $df=1$ $p<.01$, バイセクシャル： $\chi^2=7.80$ $df=1$ $p<.01$, トランスジェンダー： $\chi^2=7.93$ $df=1$ $p<.01$)。「受け入れがたい」とする割合を両者で比べると、すべての項目で中高年層が高校生を上回り、ゲイとバイセクシャルでは有意差が認められる(ゲイ： $\chi^2=13.85$ $df=1$ $p<.001$ 、バイセクシャル： $\chi^2=17.93$ $df=1$ $p<.001$ 。) LGBTを受け入れがたいと感じる高校生は全項目で5%以下だが、中高年層ではゲイとバイセクシャルを受け入れがたいと感じる人が10%を超える。なお、「その他」の回答の中には、「気にしない」「よくわからない」「そんなあり方もあるのか、幸せなことなのか」などの意見が見られた。

LGBTという言葉の情報源としては、高校生および中高年層の半数前後が「このアンケートで知った」と答えている。それ以外には、ネット、新聞から知ったという回答が多く、その他に、それをテーマとした演劇や本、ドラマ、家庭学級 (PTA)、学校現場、研修会などがある。

自分の子どもや孫がLGBTだと告げたらどうするかという質問に対し、高校生、中高年層共に「受け入れようとする、子どもが幸せに過ごせるように助ける」、「人によって考え方は違うからいいと思う」、「外部から変えることはできないと思うので受け入れる」、「多少抵抗はあるが受け入れる」など「受け入れる」と考える人が多いが、「受け入れがたい」「最初

表8. LGBTについて授業で取り扱うこと

		人数 (%)
とてもよいと思う	高校生	29 (11.8)
	中高年	20 (14.2)
よいと思う	高校生	128 (52.0)
	中高年	85 (60.3)
どちらでもない	高校生	64 (26.0)
	中高年	24 (17.0)
あまりよくないと思う	高校生	10 (4.1)
	中高年	6 (4.3)
よくないと思う	高校生	10 (4.1)
	中高年	6 (4.3)
無回答	高校生	5 (2.1)
	中高年	1 (0.7)

は受け入れがたい」「最初は否定する」「自由にさせる」「受け入れる」「わからない」「否定する」「ショック」など受け入れに否定的な意見も少なくない。表8はLGBTを授業で取り扱うことをどう思うかを示したものである。「とてもよいと思う」、「よいと思う」と回答した割合は、高校生157名 (63.8.0%)、中高年層109名 (77.3%) であり、中高年層の方が肯定率が有意に高い ($\chi^2=7.58$ $df=1$ $p<.01$)。

学校におけるトランスジェンダーへの配慮として男女共に呼び方を統一すること、多目的トイレの使用を許可すること、制服の廃止を認める

こと、水着を男女とも上着のついたものに統一することをそれぞれどのように思うか尋ねてみた。

「男女共に呼び方を統一すること」については、「とてもよいと思う」「よいと思う」と回答した割合は、高校生157名（63.8%）に対し中高年層は108名（76.6%）であり、中高年層の方が肯定率が有意に高い（ $\chi^2=7.37$ df=1 p<.01）。LGBT当事者がトイレに行きやすいよう配慮する方法としての「多目的トイレの利用を認める」は、「とてもよいと思う」「よいと思う」と回答した割合が、高校生104名（42.3%）に対して中高年層104名（73.7%）であり、「あまりよくないと思う」「よくないと思う」と回答した割合は高校生29名（11.8%）に対して中高年層11名（7.8%）である。高校生と中高年層を比べると中高年層の方が肯定率がかなり高い（ $\chi^2=45.40$ df= 1 p<.001）。

表9. 学校におけるトランスジェンダーへの配慮

		男女共に呼び方を統一する	多目的トイレの使用を許可する	制服の廃止を認める	水着を男女とも上着のついたものに統一する
とてもよいと思う	高校生	34 (13.8)	15 (6.1)	20 (8.1)	15 (6.1)
	中高年	35 (24.8)	28 (19.8)	7 (5.0)	13 (9.2)
よいと思う	高校生	123 (50.0)	89 (36.2)	57 (23.2)	57 (23.2)
	中高年	73 (51.8)	76 (53.9)	42 (29.8)	37 (26.2)
どちらでもない	高校生	79 (32.1)	111 (45.1)	103 (41.9)	130 (68.7)
	中高年	23 (16.3)	31 (22.0)	52 (36.9)	68 (48.2)
あまりよくないと思う	高校生	7 (2.8)	17 (6.9)	42 (17.0)	22 (8.9)
	中高年	1 (0.7)	5 (3.5)	20 (14.2)	11 (7.8)
よくないと思う	高校生	0 (0)	12 (4.9)	22 (8.9)	20 (8.1)
	中高年	4 (2.8)	6 (4.3)	16 (11.3)	11 (7.8)
無回答	高校生	2 (0.8)	2 (0.8)	3 (1.2)	2 (0.8)
	中高年	4 (2.8)	1 (0.7)	4 (2.8)	1 (0.7)

一方、制服の廃止を認めるは「とてもよいと思う」「よいと思う」を合わせて高校生77名、(31.3%) 中高年層49名 (34.7%)、水着の統一については高校生72名 (29.3%)、中高年層50名 (35.5%) にとどまり、両者ともに低くなっている。高校生に比べて中高年層の方が肯定する割合がやや高いが両者の間に有意差は認められない。

その他、学校現場においてLGBT当事者に配慮した取り組みとして何が必要だと思うかという質問に対し、高校生は「体育などの着替えの際、部屋の中でさらに分けられるようにカーテンなどで仕切れるようにする」「更衣場所の設置/男女の差をなくすために色などを統一する」「男女区別してあるもので、統一できるものは統一する」「ランドセルの色を何色でもいいことにする」「周りの人がLGBT当事者を普通に受け入れること」「男女ともにトイレを

個室にする」「男女差別や偏見を持たない」「制服を自由にする」「制服をズボンで統一する」「髪型の校則をなくす」「出席番号を男女混合にする」「色の概念を無くす」など、中高年層は「ランドセルの色を男女で統一する」「水着、制服を選べるようにする」「正しく理解するための教育をする」などの意見が挙げられた。高校生は自分の生活にもかかわってくることから、多様な意見がある。

IV. 考察

レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーに対する知識についてみると、レズビアンとゲイは比較的良好に認知されており、中高年層の9割以上が「知っている」と答えている。高校生でも、レズビアンについては74.7%、ゲイについては83.7%が知っている一方でレズビアンを全く知らない高校生も約5%いることがわかる。これに対して、バイセクシュアルを知っている高校生は37.4%、中高年層は46.8%、トランスジェンダーを知っている高校生18.7%、中高年層34.8%にとどまり、トランスジェンダーを全く知らない高校生は5割を超える。全体的にみて中高年層の方がよく知っており、とくにトランスジェンダーの知識は両者の間の差が大きい。レズビアンやゲイには昔からその存在が知られており、中高年層の多くが知っているのは当然ともいえるが、高校生も意外によく知っている。これに対して、とくにトランスジェンダーがマスコミ等で取り上げられるようになったのは比較的近いことである。中塚(2014)^{*2}、中塚(2016)^{*3}が指摘しているように、授業の中でも比較的良好に取り上げられるようになってきたことから、高校生の方がよく知っていると予想したが、逆の結果であった。授業等で取り上げられているにしても、まだまだ高校生に浸透していないことがわかる。LGBTの立場に立った施策がスムーズに実現されるには周囲の人の理解が前提であることから、とくにバイセクシュアルとトランスジェンダーに対する理解を目的とした教育や大人への啓蒙が求められる。出会った経験の面では、LGBTのすべてにおいて中高年のほうが「出会ったことがある」と答えた割合が高く、高校生が低い傾向であった。

LGBTの受け入れに関しては高校生と中高年層の間でかなりの違いがみられる。高校生では「いいと思う」が4項目とも5割を超えている。これに対して中高年層では、「いいと思う」は4項目とも4割以下であり、とくにバイセクシャルは全体の22%にとどまっている。「受け入れがたい」とするものも全体的に中高年層が多く、とくにゲイとバイセクシャルは10%を超えている。高校生はLGBTの知識や経験が多いわけではないにも関わらず、LGBTに関して中高年層よりも受容的である。これは、学校の授業で取り上げられることや、近年、テレビなどのメディアでもLGBTが多く取り上げられるなどの影響もあるものと思われる。反対に中高年層は「否定する」「受け入れがたい」「なるべく、本来の性らしくふるまうようしつける」の意見に代表されるように否定的な意見が多くみられる。中高年層は、学校教育で

同性愛やLGBTを学んだこともなく、親の世代から受け継いだLGBTへの偏見を持ち続けている人も多いものと考えられる。

学校現場で行っている様々な対策については、授業でLGBTについて取り扱うことを「とても良いと思う」「いいと思う」と回答した割合を見ると、中高年層の方が肯定率が10%以上高い。柳原(2000)^{*4}によれば、最初、同性愛に対して否定的であった看護学生が授業を通して文献を読み進めるなかで肯定的・受容的に変化したという。このことから、知ることが理解や受容を促すことがわかる。文献を読むことや授業で取り扱うことはLGBTに対する理解や受容を促す方策として有効である。高校生の自由記述の中に、「学校で教えることで余計に差別や偏見の対象となるのでは」という趣旨の意見が複数みられることから、中途半端な教育によって差別を一層助長するのではないかという思いを持つ高校生がいることがわかる。LGBTについて学校教育で取り上げる場合には、曖昧な知識を与えるのではなく具体的かつ正確な知識を伝えるとともに、差別的な発言をするのは人権侵害にあたること、LGBTであることはおかしいことではないこと、かなりの割合で存在することなどを丁寧に伝える必要がある。また、中高年の意見の中に、「幼児期や学童期からしっかりと教育を行い、差別や偏見をなくすべき」という考え方が多くみられる。より早い時期からの教育によって抵抗をなくしていくことも考慮する必要がある。

LGBTに関するいくつかの施策の実施に関しては、「男女共に呼び方を統一する」については高校生、中高年層共に肯定的な意見が多く、高校生の6割以上、中高年層の7割前後が肯定的に受け止めている。これに対して、「多目的トイレの利用を認める」は、中高年層の7割以上が肯定的な反応であるのに対し、高校生の肯定率は4割台にとどまっている。「制服の廃止を認める」と「水着を男女とも上着のついたものに統一する」は肯定率が低く、高校生、中高年層共に3割前後である。いずれの項目も中高年の方が実施を肯定する傾向が大きい。とくに「男女共に呼び方を統一する」と「多目的トイレの利用を認める」では20%以上の、差が見られた。

高校生はLGBTそのものには比較的寛容だが具体的な施策には中高年層よりも否定的である。高校生にとっては毎日の生活に直接影響する問題であり、どうしても慎重にならざるを得ないのではないだろうか。高校生の知識がLGBTの立場に立って考えるまでの表面的な知識にとどまっている可能性もある。いずれにしても、高校生の思いを無視した形でこれらの施策を導入すると反発を招き、LGBTそのものへの思いにも悪影響を与える可能性があることから、導入する場合には十分な知識を与えるとともに、集団討論やロールプレイなどを通してLGBTの人の立場に立って考えられるようになるまでレベルを高めたのちに生徒の思いをしっかりと受け止め、同意のもとで行うなど慎重な取り組みが求められる。

LGBT当事者が社会の中で1人の個人として尊重されながら充実した生活を送るために周りの人の理解は不可欠である。学校や政府、地方自治体なども取り組みを進めつつあるが、

今回の調査結果が示すように世間の理解は必ずしも深くない。とくに、生徒の保護者層である中高年層の理解を深めていく必要がある。保護者を対象にLGBTを主題にした講演会を開催する、家庭での高校生との対話を促すなど多様な方法を用いた啓蒙活動が求められる。

文 献

引用文献

- *¹上野淳子 心理学における性的マイノリティ研究—教育への視座—, 四天王寺大学紀要 第46号: 73-82, 2008
- *²中塚幹也 性同一性障害と学校における対応, 教職研修, 43 (3), 74-77, 2014.
- *³中塚幹也 今学校でLGBTを教えることの意味, 体育科教育8月号, 16-19, 2016.
- *⁴柳原真知子: 看護学生のセクシュアリティとセクシュアリティ教育. 東北大医短部紀要9 (2): 161-173, 2000

参考文献

- 葉師実芳, 笹原千奈未, 古堂達也, 小川奈津己: LGBT ってなんだろう?: からだの性・こころの性・好きになる性. 合同出版株式会社: 2014
- 枝川京子, 辻河昌登: LGBT当事者の自己形成における心理的支援に関する研究—ナラティブ・アプローチの視点から—. 学校教育学研究 第23巻: 53-61, 2011
- 平森大規: 職場における性的マイノリティの困難—収入および勤続意欲の多変量解析. 国際基督大学ジェンダー研究センター: 91-118, 2015
- 佐久間悠太: 同性婚をめぐる諸外国の動向. 名古屋市立大学大学院人間文化研究科 人間文化研究 第20号: 135-158, 2014
- 釜野さおり. レズビアン家族とゲイ家族から「従来の家族」を問う可能性を探る. 家族社会学研究20 (1): 16-27, 2008
- 加藤慶: “クイア”な幼年期から高校時代: 関東地方に住む20歳前半の性的マイノリティ男性 Aさんのライフヒストリー: 渡辺大輔, 青木真美, 尾辻かな子ほか: セクシュアルマイノリティをめぐる学校教育と支援—エンパワメントにつながるネットワークの構築にむけて—. 45-60, 2012
- LGBT法連合会: 「LGBT」差別禁止の法制度って何だろう?. かもがわ出版, 2016
- 加藤秀一: 性現象論—差異とセクシュアリティの社会学—. 勁草書房: 1996
- Baird (町田哲夫 訳): 性的マイノリティの基礎知識. 作品社: 2005

Intergenerational disparity on knowledge and understanding of LGBT

Toshiaki TANAKA^{*1}, Toshihiro SADASUE^{*1}, Misaki TAKEYA^{*2}

^{*1}Department of Childhood Care and Education, Kyushu Woman's Junior College
1-1 Jiyugaoka, Yahatanishi-ku, Kitakyushu-shi, 807-8586, Japan

^{*2}Hirao Elementary School 3-29-1, Hirao, Nishiku, Fukuoka-shi, 810-0014, Japan

Abstract

To examine the measures suitable for each generation that encourage understanding and Acceptance of LGBT (lesbian, gay, bisexuals, transgender) we compare generations with respect to understanding, acceptance, empathy, affirmation, negation, and self experience of LGBT for middle-aged and elderly generations including high school students and their guardians. About lesbians and gays, both familiarity knows well, but bisexuals and transgender are not well understood. LGBT is familiar to middle aged and elderly generations, and many of the experiences we met, high school students the percentage of acceptance was high, the percentage of middle-aged and elderly generations accepted as a whole was low, especially negative response to gays. Regarding consideration for uniforms and the use of toilets. There are many opinions that high school students should unite, and there is a tendency to think that it is desirable to make middle-aged and elderly generations freely choose. The proportion of thinking that it is desirable to deal with LGBT in classes was higher for middle-aged and elderly generations. From these result, it seems that high school students negatively watching LGBT or having a disgusting feeling makes the parties Feel strong pain and lack of life, casual words hurt their opponents, that for middle-aged and elderly generations, it is a challenge to promote understanding and acceptance by notifying that LGBT is a figure of nature and the thought of the parties.

Keyword : LGBT Understanding and acceptance Intergenerational disparity